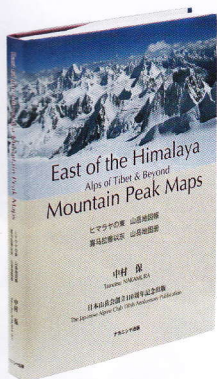


## 『ヒマラヤの東 山岳地図帳』 中村保さん、自著を語る

中村保=文 山田薫=写真



『ヒマラヤの東 山岳地図帳』

中村保 著  
ナカニシヤ出版  
☎075-723-0111  
菊倍判 352ページ  
1万800円 16年3月

「半世紀は価値を失わない決定版を作って欲しい」との言葉に背中を押されて10年前のこと。

08年に英国の王立地理学協会からチベット踏査を対象に日本人初のメダルを受賞した折に、ケンブリッジ大学山岳会の重鎮から「半世紀は価値を失わない決定版を作

**20**年前に山と溪谷社から出版した『ヒマラヤの東』が人生二毛作の再出発点家にとって10年という期間は一つの仕事をやる時間の区切りだった。香港滞在中に始まったヒマラヤの東への踏査は四半世紀が経ち、その間2014年までに37回も足を運んだ。スポンサーは？とよく訊かれるが、すべて手弁当である。

16年前に立ち上げた日本山岳会の海外向け英文誌『Japanese Alpine News』と辺境探査は車の「両輪」だった。個々の記録は『山と溪谷』をはじめ内外の単行本、山岳誌に発表してきたが、広大なヒマラヤの東を概観総括する文献地図は存在していなかった。それができるのは自分しかない、いざれ纏めて世に出そうと思ひ、地図を描き始めたのが10年前のこと。



され、本格的な準備を踏査行と並行して進めた。アメリカ山岳会の名誉会長、故ビル・パトナムさんは別の意味での恩人である。私を一番理解してくれた方で、アメリカ山岳会、国際山岳連盟UIAAの名譽会員に推挙してくれた。しかし、パトナムさんは昨年他界され、地図帳をご覧いただけなかったのが心残りである。

地図帳は海外向けを主と考えたため、英語をベースに日本語、中国語の三カ国語版を企画した。素

案が固まりつつある段階で、日本山岳会創立110周年事業の記念出版になった。内外の多くの登山家、探検家、地理学者の惜しみない協力により地図帳ができた。作図編集をしていただいた竹内康之さんのご尽力、小泉弘さんのすばらしいカバー装丁のデザイン、ナカニシヤ出版さんのご協力があつてはじめて世に出すことができた。その原点として横断山脈研究会というベースキャンプがある。10年ひと仕事を実感している。

地理的困難さと政治的理由から、今なお入域が難しいヒマラヤ山脈の東。中村さんは90年以降、彼の地へ通り、多くの地理的な発見を重ねた。これまで『ヒマラヤの東』『深い浸食の国』『チベットのアルプス』(山と溪谷社)、『最後の辺境』(東京新聞)などの著作がある。本書(写真)は53葉の地図と写真544枚を収録した、踏査の集大成。

なかむら・たもつ  
1934年東京生まれ。一橋大学山岳部出身。